

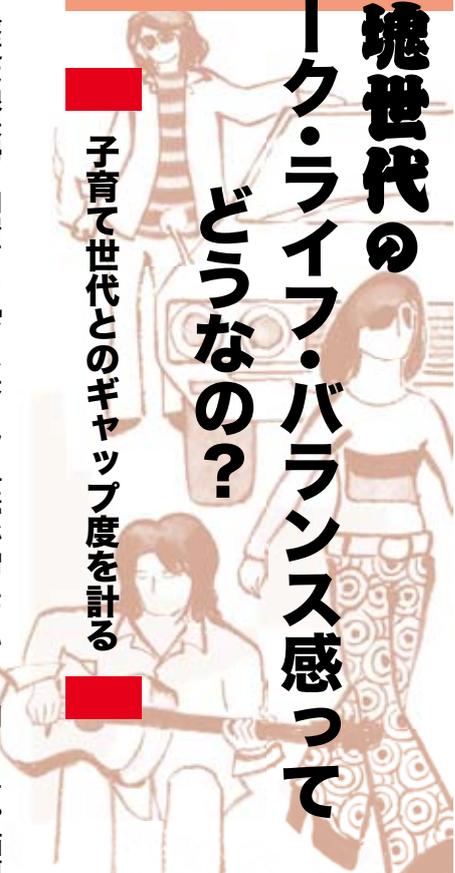
# 特集

## 団塊世代の ワーク・ライフ・バランス感って どうなの？

### 子育て世代とのギャップ度を計る

### ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)とは

誰もがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域活動などにおいても子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること。



最近では娘夫婦と同居する「マス夫さん」世帯が増えていると聞きます。価値観や社会経験がまったく違うジェネレーションギャップを克服し、二世帯同居は、可能なのでしょうか。  
ワーク・ライフ・バランスについて、親に当たる団塊世代はどう考えているのかを聞いてみました。また、その子どもに当たる子育て世代からは、その感想をもらいました。

64歳  
民生委員  
女性

### 姑や夫の顔色を気にした時代

#### ♥ 女はネコのシッポ

団塊の世代の少し前の私たちは、戦後の民主教育をしっかりと受けた世代でもあります。だから男女平等は当たり前で、女性だからといって差別されたという記憶はあまりないんですよ。



ただひとつ、男女平等を意識させられたのは、10歳下の弟が生まれたときに父が「やっとネコのアタマが生まれた」とつぶやいたひとことです。同じ姉弟でも「男の子はアタマで、女の子はシッポなんだ」という怒りとも悲しみともつかない想いをしました。

#### ♥ 子どもと一緒に成長

職場で夫と出会い、結婚して5年間は共働き、妊娠・出産を契機に専業主婦になりました。そのころは、育児休業なんて制度もなく、私自身、保育園に預けてまで働こうという発想もなく、家事と育児に専念することを何の抵抗もなく受け入れていました。夫に「家にいろ」と言われたわけでもなく、そのことについて話し合ったこともありません。

#### ♥ 喜ぶ顔を見た

ただ大変なこともありました。なにせ何もなかった時



代ですから、自分たちで作って、育てていかなければならない。子どもたちによい本を読ませたいと思ったり、そういう本を探して与えなければならぬ。みんなで集まって、ワイワイガヤガヤやりながら手作りの物を与えたり、劇団を呼んで本物の演劇に感動したり、自分たちも楽しいけれど、子どもたちが喜ぶ顔を見たい、ただそれだけの気持ちで活動してきました。それでも、姑や夫の顔色を気にして、参加したいのにあきらめる方も結構いたような気がします。まだまだそんな時代だったんですね。

#### 「姑や夫の顔色を気にした時代」

#### 子育て世代の意見



「ネコのシッポ」とは初耳。生まれた子どもを、アタマだ、シッポだと言いつけるなんて悲しいです。

また、女性が家事や育児に専念することに、男女とも抵抗がなく、それが当たり前の時代だったんですね。私の場合は、妊娠・出産をしても仕事は続けたいと結婚前から夫と話していました。



私は団塊ジュニアの世代ですが、この時代には、その時の価値観や時代背景があったのでしょうね。でも、私にこっちは、なかなか理解し難い考え方ですね。夫や姑の目を気にして、自分がいいたいことが出来なかった人は、つらかったと思います。

